

諸家系譜

庫文官政太		和書門	
三三九	三三六	四九	
冊架	函號	類	

庫文閣内		和書	
三三九	三三五	四九	
冊架	函號	類	

内閣文庫		
番號	和	32649
冊數	225 (224)	
函號	156	23

位
寸
菅谷
菅浪
末高
末吉

共二百廿五向

共八十七



す
紀

系譜

東正月廿八日
多分所書之書

書
書之系譜書。河田書之書

寄合
菅谷紀八郎

紀姓

信太蔭谷

天祖信太乃自負賴何時代名始
常陸國使都善原村之居任江原
信太上稱其後受命之公高基時
代務作之請分文立名善原谷上改
因少子爾居任

神武御代為之能政出地乃能成

那子子生村海原居任

龜甲

龜甲上葉葉

家之紋

日三巴

幕之紋

龜甲根葉祿一布年附

夢之紋

日三巴 指板

神武天皇代

孝光天皇

孝天皇信命

產日母常

武雄心命

武內宿禰

執政手部木免

宿禰

大官平君上鳥宿禰 大口臣

仁德天皇執政

大慈臣紀朝臣大人

國蓋

位下

清人

諸人

大改大臣

大納言

大率太

光仁天皇外祖

奈磨

古依新

廣濱

長江

豐河

真彌

箕井

命守

皇位履一

國守

杖籠

淡三火彌
伏等禪師

長久雅
皇位中納言
紀貫之

致雅

忠行

協川美

負雄

中納言

惟致
高子
改致作

負賴

紀信太

孝元天皇三代信太
初八帝
負賴常陸國信太初
初八願
故信太

賴康

信石

賴高
信太

賴房

信房
信石

忠貞

信房
信石

宗房

信房
信石

宗久

信房
信石

賴冬

伊勢守
法名法春

賴春

伊勢守
法名法春

賴春

掃部頭
法名東恩

轉

能八

範宗

伊勢守
法名宗觀

果

須
伊信右衛門
法名宗遠

晴負

攝津守
法名宗遠
本國
共常陸

母

菅谷院院子女

妻

不知

出生年不知

永正三年八月山田氏為各代大將

常陸國土浦城主菅原五郎左馬廐

高捕得方利以宗公方高者公賜感

狀曰十六年八月上總由推律合致

得方利之方高者公賜感

天正二年九月二日八拾三歲病死

常陸國土浦神祇寺

法名法全寺主兼院公

感

為氏法代官池兼抽物骨之百也
神加之公於向後列方之者以惡切也

永正自序後乞

永正十三年（高基）

八月廿四日

刊

高基

永正十三年八月於上總國推津合殿
高基

感德

永正十三年八月廿三日

高基

刊

八月廿三日

刊

高基

政負

九馬堂

楊津

山家

如石

如石

如石

永正十三年八月廿三日

高基

高基

城上氏臣と日北の真在初田の
王の道一氏治の後云

永保三年冬田三葉佐布傳と傳一
在乃山之者是也日向大時政貞と神神
合動之時痛と若否否天治部政教
於并古川と死すしと之佐布路為不
少田為城守るに官氏治と古傳と城九日後
二年少田と動差為に彼城と遠國傳
歸城の也永保三年常力と府中大探
法元少田氏治と合動と政貞助助一と

元年記之於之村物合動の時と分言
傳法と内教と并此化所身と云ありし
法と記之於十六人完備政貞と大乃第切
おとさの碑と主部と余部と分教と
初と府中と城守と進治と古利と
氏治と感物と物政貞と云と古利と軍
既國府と古利と自後と不獲と古利と治
今と云と古利と
文治元年壬辰年二月二十七日乙未朔
常陸守と神神と永保三年
法元と神神と長春と全久

威化堂

了復於三月星夜而後加會錄以
務皆好以之利多矣誠欲切宜此
亦近以何如仲

永源六年 氏信

二月廿九日

并

如 夏官物傳書版

成作書物

政賴

長信部

母不知

女子 夏官左馬右文能政室

妻不知

出生年不知

永源二年未年有常州山主多合能死

之存或成葬地同守 注右馬右文能

能政

長信部

母不知

妻不知

出生年不知

元龜元年平在田之樂主信云道按等

常刑出而城水注之時因出北部於

運坂雖者合於大軍競上之也少田

之存或成葬地同守 注右馬右文能

寛永二十五年十月廿三日所利物成
此令以所物成

大印利物成

常陸守繁治部 子生村四方
九才外中陸守村四方
之方三指善在口以別府村
之方以浪海村之方以陸守
海村四方以陸守口以陸守
之方以四方以陸守之方以
之方以陸守之方以陸守之
之方以陸守之方以陸守之
寛永二
十月廿三日
御朱印

三原守紀公印

其後常陸守繁治部 子生村四方
所 雄山守紀公印 長年守紀公印
慶長十七年八月九日之推
大熊守紀公印
信在 天叟守紀公印 雄山良央

範貞 能八郎 在馬村

母 其後守紀公印

妻 其後守紀公印

出守守紀公印
右 守紀公印
信在 天叟守紀公印

先年於彼處... 亦如... 廣長...

台德公... 廣長...

口十九年... 廣長...

及... 廣長...

松... 廣長...

台德公... 廣長...

台德公... 廣長...

中... 廣長...

上... 廣長...

即... 廣長...

上... 廣長...

神... 廣長...

即... 廣長...

元... 廣長...

大和云日之 所行未入所上即同也

嚴方云日之 所行未入所上即同也

其八力二十八歲物記
常陰出惟山守森

法在 海林院原定之法

政然 初載明 公言信

母 極亦常口春給也

妻 迎友登也與用也

出也

其八力之正原年天紀八前年然也

明曆之丁酉年控所也

實是也己酉年再在也

上野常陰四子出監城矣

其八力之正原年天紀八前年然也

其八力之正原年天紀八前年然也

其八力之正原年天紀八前年然也

其八力之正原年天紀八前年然也

其八力之正原年天紀八前年然也

其八力之正原年天紀八前年然也

西暦一千四百五十四年九月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日
申年八月廿五日

政朝 八馬

政房 若馬

實元 川口物屋
實母 石川
養母 石川

子安 石川

西暦一千四百五十四年

八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日
八月廿五日

範平 長命 在奥 吾原

母 実三右衛門忠成
実七三右衛門

志 大出之理師 隆隆女

如生年一少志

八尋上御中長子吉吉男物此仁而身
御下御中長子吉吉男物此仁而身
吉吉男物此仁而身
元治六年西平月日
一平月日

日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日
日一西 亥三平月日

吾母... 壬寅年十月十日... 物記...

来 初产回内通 後信急須

母之哀女

實係... 九月... 物記...

皇曆... 十月... 物記...

日... 十月... 物記...

九月... 物記...

女子... 物記...

女... 物記...

走... 九月... 物記...

十月... 物記...

昔年十月十日... 皇代...

壬寅年十月十日... 物記...

来... 初产... 後...

母之哀女

寅保... 九月... 皇代...

皇曆... 十月... 皇代...

日... 十月... 皇代...

九月... 皇代...

女子... 皇代...

小... 皇代...

女... 皇代...

壬寅年... 皇代...

十月十日... 皇代...

正章 或幼 内格 年命 為 仲

矣 世嘗 各得 正氣 既復 其願

安永四乙 未年七月廿九 西元正德元

井上孝八 高田 同 尊 孝 長 子 孝 忠

某 長子 幼 早世

母 家女

政常 合 治 高 大 子 孫 兵 庫

母 家女

孝 丹 相 君 後 高 庸 女

出 生 年 之 志

室 曆 七 丁 乙 年 九 月 廿 二 日 志 父 兵 庫 孫 孫

孫 志 根 孫 行 于 志 父 左 殿 町 年 行 志 孫

池 田 流 孫 志 孫 孫 孫 井 上 高 田 子 孫

志 孫 日 月 八 日 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫

志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫

志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫

志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫

志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫 志 孫

父吾原守能高道信或新法以
動以台西度院修多故以所後中
以院力

日八庚寅年三月十八日
此乃乃代其全其殺物之正初
惟信公也 御國之仁公

大綱之孫也 法乃乃代白浪之殺物之
御國之仁公 上後月多其年公自
城守能出此仁公

日十庚辰年二月七日
行乃其地乃日年一其子之
法乃其地乃日年一其子之

以如也戶 仁力

日三年九月廿二日
年九月廿二日 法乃其地乃日年一其子之

師之物也 法乃其地乃日年一其子之

日二 丙午年十一月十日
日二 丙午年十一月十日 法乃其地乃日年一其子之

日 仁力

日五 丙午年十一月十日
日五 丙午年十一月十日 法乃其地乃日年一其子之

日七 庚寅年三月十八日
日七 庚寅年三月十八日 法乃其地乃日年一其子之

地同上 号左使院 巨山 常滿

頼高 保之 頼貞 其友

母家女

室曆十二年八月廿四日使君之令孫坊
御負頼庸知母家女

女 西凡中住地 次下右左所

母家女

女 此住地左所 次下右左所

母家女

酒井松馬忌福妻

女

此住地左所 次下右左所
母家女

酒井丹次忌福妻

政因

紀八房 在町 内面

女 丹科 在後 高庸妹

妻 井上周房 高庸女

明和四年十月四日也

日七庚寅 午十月廿九日也

城下此方住地左所 次下右左所

牛高光 城下此方住地左所 次下右左所

記武新下此方住地左所 次下右左所

此住地左所 次下右左所

明和八年三月廿四日 紀月一節也

知州身便名品仰考方三代言名臣

初之化

大綱之極中四之方三代之派之致初之化之方

以子而能方以世之方三代之派之致初之化之方

以孫之方以世之方三代之派之致初之化之方

以孫之方以世之方三代之派之致初之化之方

以孫之方以世之方三代之派之致初之化之方

以孫之方以世之方三代之派之致初之化之方

口年九月廿五日

後原公大德方馬代初之化初

仰月之化之方後月之化之方白覺

城之化之方

口四之化之方三月廿五日

信身之化之方三月廿五日

口七之化之方三月廿五日

口八之化之方三月廿五日

口九之化之方三月廿五日

口十之化之方三月廿五日

口十一之化之方三月廿五日

口十二之化之方三月廿五日

口十三之化之方三月廿五日

口十四之化之方三月廿五日

口十五之化之方三月廿五日

十有初九日... 口十... 高... 初... 口... 口... 口...

某 政... 早世

母家母

女 早世

母丹... 早世

女 早世

政和 紀八郎

母井上... 早世

初... 年... 早世

安... 年... 早世

口... 年... 早世

其... 年... 早世

光... 年... 早世

久... 年... 早世

光... 年... 早世

傳方志如又知... 田... 早世

日... 早世

不願... 早世

身... 早世

所... 早世

し... 早世

日... 早世

即... 早世

初... 早世

某... 早世

母... 早世

女子... 早世

母... 早世

女子... 早世

母... 早世

女子
母家女

和年おれり

女子

母家女

右口り

古河河内守家

高田子之而右

達江守

和國常陸

居居おれり何ん山之

抱此おれり也是所可和也

實政上巳
未二年十二月

菅谷紀八郎

未十八歳

す
記

系
譜

東土ノ海
浦口ノ標記也

後氏
西土ノ海
浦口ノ標記也

七
官
八十八

紀姓

菅谷

幕之致

根氣橋三市米組

泉之致

亀甲十二葉之兼

先祖信田紀八郎自其公菅谷紀八郎
範重之系種之儀名如家高合
菅谷紀八郎有書中

菅谷紀八郎範重之系

政朝

此處

母杜村常口泰福女

之妻

知生二年月日也

父紀八郎範重之系其子元正
二十八年三月死於此
公海路紀八郎有書中

日之知少所山島信之入

寛文三年四月日也
市谷中津島公信

口九正五年十月十日
年之知少所山島信之入
法衣正服虎

政憲

初建於年八月... 何子音

養母... 何子音

實父... 何子音

實母... 何子音

喜... 何子音

明曆三丁酉年... 何子音

儀

嚴有公... 何子音

寬文九己酉年... 何子音

永... 何子音

根... 何子音

文... 何子音

日... 何子音

日... 何子音

日... 何子音

仕... 何子音

日... 何子音

宣永五年二月廿六日相方内閣御覽
又作

同日己丑年二月廿六日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

正徳元年八月十日合内閣御覽

日十五庚戌年十二月廿八日十四歳御覽
正徳元年八月十日合内閣御覽

政則 高内

母 菅原公方御覽

妻 游川藤原光長女

天和二年正月十日生江府

元禄九年正月十日生江府

正徳元年八月十日合内閣御覽

少子王後二年四月。少子山内恒繼出條
出山内又繼山内入山内。後有山内恒繼
繼山内山内山内。

富永文真子。九年九月。山内山内。山内山内。
山内山内。山内山内。

定秀 初名山内 山内山内 山内山内

山内山内

山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。
山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

女子 山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

女子 山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

女子 山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

山内山内

政補 初名山内 山内山内

山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。
山内山内。山内山内。山内山内。山内山内。

永貞 初勅三忠 彦以多

母同上

享保三年十二月廿三日
攝摩多末氏之孫

西補 宣旨

母同上

妻 天重之孫 昌子之女

元治十二年九月廿七日

宣旨 又 十月廿七日

信方 永貞之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫
昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫
昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫

有德公 所代 享保四年八月廿二日

采女 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫

昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫

昌子之孫 昌子之孫

昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫

昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫 昌子之孫

日二申年十月八日大政修政司
 分司收領 任付 切支 御考書 後
 日三酉年三月 御考書 任付
 日年七月十日 御考書 任付
 日年九月十日 御考書 任付
 日年 法者 大皇院

女子

山崎 女
 山崎 女

政學

初年 公家

母曰上

喜

押田信長 女

元文二年 三月 生

富原 女
 治承 女

小書法部公事十二箇月之能入
口九乙卯年四月廿六日
与能事長西丸御事候
細事等入以候事
以候事四月十箇月
御事長御事
惟信公 兼御事候日
只力事長西丸御事候
日十二箇月十一月十日

若君様
位高事
母事
三月廿八日

若君様
三月廿八日

若君様

任后口之西 壬午 九月八

渡明公 臺卿之方

去納之様 仰而丸七 仰月 核口の延

同平年十月廿八日 是るる道西之

おありの方 物重 御中 教り 江後

亥之辰二直 酉年 四月 二十 吉吉川 舟橋

御子 江之方 仰而丸七 仰月 核口の延

仰り 教り 江後

口又 亥年 六月 廿九日 之 任世 歳 初 祀

其 井 比 口 永 号 野 功 院

如子 山北

夜 産 産 あり 良 女 妻

如日上

女子 山北

山 北 任 あり 産 孫 妻

如日上

初 卯 山 任 あり 産 孫 妻 嫁 あり 不 嫁 あり 歌 あり

任 あり 後 産 産 孫 あり 良 女 あり 再 産 孫 あり

果

如 山 北 任 あり 良 女 妻

如子

如 仰 田 信 濃 あり 産 孫 女

如日上

女子

母日上

政徳

八十八

母家女

妻 如 母 家 女 如 母 家 女

寛政五年六月又八月三日物見
八月廿九日九月廿六日或初九日
方之四月廿三日致之在局
海軍佐局長とあり

日七卯年八月廿三日巨勢より及らる

同八月廿九年九月三日満里より及らる

同十月廿九年九月廿三日旅順より及らる

去陽子より及らる

政和

辰酉

母家女

女子

母家女

右通口

めくれず

寛政四子年七月五日類聚之記
煖天化臣細入依上亦如中下

高千之百石 常陰 中常陰 左衛門少将
或云 中常陰 左衛門少将

寛政十一己未年十月廿日各八十八五
二十三歳

二月廿八日
小笠原若狭守出

法氏
中三按四等坊田等

系譜

す 法新

小笠原若狭守出
若狭守久左衛門

菅原性

菅原谷 中國歌本

出所不明

元和九年二月 教權 子 菅原性
懷失 性 不知

幕三致 二子 悉甲十六菊

家致 口以

智致 九月 抄本

菅原通實 女七代之後 現紀伊致家

政友 五所 古馬

政喬 知各 女 古馬 六市 古馬

如家女

妻 口以 古馬

少子 京合 年 古馬

於紀州 富永 之 傳 年 甲子 古馬
古馬 古馬 古馬 古馬

西德三 庚午七月廿九日 旌紀

惇信公御近者 作身如知在故也

享保申 庚午月日 亦知信公 俾身之信

亦勤我身之病 亦身之疾

因之 庚午八月廿九日 亦知信公 俾身之信

又日 亦知信公 俾身之信

因之 庚午月日 亦知信公 俾身之信

亦知信公 俾身之信

旌紀

元文四年九月廿九日 四日 亦知信公 俾身之信

政時 亦知信公

母 亦知信公 俾身之信

妻 亦知信公 俾身之信

後妻 亦知信公 俾身之信

富永四 庚午月日 亦知信公 俾身之信

享保申 庚午月日 亦知信公 俾身之信

然之道遠在... 位... 敬... 敬...
 如父母... 後... 能... 亦... 亦...
 實... 元... 丙... 年... 月... 日...
 庚... 辰... 年... 六月... 日... 病... 死...
 口... 卒... 號... 昂... 院... 及... 恩...
 全別院... 紀... 別... 書...
 如... 前... 日...
 右... 隆... 隆... 年... 月... 日... 卒... 先... 任... 良... 純... 子...
 再... 出... 家... 氏... 年... 任... 職... 化...

實保三傳... 年... 十月... 日... 卒... 化... 氏...

資久 右田右左馬

亥... 保... 丁... 未... 年... 卒... 海... 山... 院... 音... 高... 兼...
 如... 考... 方... 德... 也... 每... 右... 田... 氏... 年... 卒... 化... 氏...

如子 小野田

右山野田

有... 德... 公... 冲... 仲... 也... 性... 在... 卯... 年... 若... 公... 内... 給... 正... 三... 房...
 其... 女... 氏... 德... 也... 氏... 年... 卒... 化... 氏...
 其... 年... 卒... 化... 氏...

澄州院攝正殿江正出

因大正五年十月十日豊所行在後
信信公正殿江 信信之後其家之正殿

月日之知也遊江江 信信家唐土七年
六月十日

信信公正殿豊所以月利整正殿江正殿
遊江江正殿正殿江正殿正殿正殿正殿
樹院江正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿
正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

政明 正殿正殿

母 物色正殿正殿正殿

妻

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿
正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

正殿正殿正殿正殿正殿正殿正殿

以後は傳方時法助に依りて口年十月廿六
酒井國信より來りて

其の由元五年十月廿七日に傳方時法助
同三年十月廿七日に傳方時法助
以上は傳方時法助の由り
同四年十月廿七日に傳方時法助
同五年十月廿七日に傳方時法助
同六年十月廿七日に傳方時法助
同七年十月廿七日に傳方時法助
同八年十月廿七日に傳方時法助
同九年十月廿七日に傳方時法助
同十年十月廿七日に傳方時法助

同七年十月廿七日に傳方時法助
同八年十月廿七日に傳方時法助
同九年十月廿七日に傳方時法助
同十年十月廿七日に傳方時法助
同十一年十月廿七日に傳方時法助
同十二年十月廿七日に傳方時法助
同十三年十月廿七日に傳方時法助
同十四年十月廿七日に傳方時法助
同十五年十月廿七日に傳方時法助
同十六年十月廿七日に傳方時法助
同十七年十月廿七日に傳方時法助
同十八年十月廿七日に傳方時法助
同十九年十月廿七日に傳方時法助
同二十年十月廿七日に傳方時法助

政次 久吉郎

母 徳父西明女

天保元年十月廿七日に傳方時法助
天保二年十月廿七日に傳方時法助
天保三年十月廿七日に傳方時法助
天保四年十月廿七日に傳方時法助
天保五年十月廿七日に傳方時法助
天保六年十月廿七日に傳方時法助
天保七年十月廿七日に傳方時法助
天保八年十月廿七日に傳方時法助
天保九年十月廿七日に傳方時法助
天保十年十月廿七日に傳方時法助
天保十一年十月廿七日に傳方時法助
天保十二年十月廿七日に傳方時法助
天保十三年十月廿七日に傳方時法助
天保十四年十月廿七日に傳方時法助
天保十五年十月廿七日に傳方時法助
天保十六年十月廿七日に傳方時法助
天保十七年十月廿七日に傳方時法助
天保十八年十月廿七日に傳方時法助
天保十九年十月廿七日に傳方時法助
天保二十年十月廿七日に傳方時法助

宗元公此年正月七日卯死此年
十月三日卯辰子刻也此年正月
七日卯辰子刻也此年正月
七日卯辰子刻也此年正月
七日卯辰子刻也此年正月
七日卯辰子刻也此年正月

女子

母 前日

宗元公此年正月七日卯死

御宗元公此年正月七日卯死

女

母 前日

右通正徳公

高成百侯 和國御宗
生國御宗 信如後白山御宗

宗元公此年九月 宗元公此年九月
末十九日 五

東三河正白
山崎重信

後
山崎重信。場田重信

先祖書

す
信和
新

山崎重信
菅谷信和

二條河原宮子... 田中左衛門...
長

同土壽... 初化... 年...
... 白... 年... 地中

重正... 由...
...

二代目... 相... 秋山...
...

由...
...

重正... 年... 月... 父...
...

田中左衛門... 二條...
...

...

元禄... 年... 月... 父...
...

重正... 年... 月... 父...
...

重正... 年... 月...
...

重正... 年... 月... 父...
...

元禄... 年... 月... 父...
...

重正... 年... 月... 父...
...

兄若菜吉市之方通養長中身之長也

二代目 生國成翁 秋山吉市之方通養長 秋山吉市之方通養長

母 吉市之方通養長 若菜吉市之方通養長

元禄三乙酉年八月のちのち今御代大御前

御中 大御前中 後大御前中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中 御中

政事書長安之音

政事書長安之音

政事書長安之音

政事書長安之音

元文丁未年三月十八日

舟記書印

舟記書印

舟記書印

舟記書印

舟記書印

舟記書印

舟記書印

舟記書印

古河之北

古河之北

古河之北

お幼穉時より力に長じて徳を成す
二月に於て余の如く此の四十の年を
予の如く長遠守り奉る
号後序宗英
舟長書

寛政九年八月廿二日
若狭守長春子

一陽御分各々之に御書
若狭守長春子

六月 生島御書

寛政九年八月廿二日

若狭守長春子

若狭守長春子

若狭守長春子

養母

実母

右徳主権後室より御書に養母の如く
西徳主権年より御書に養母の如く
徳主権長子より御書に養母の如く
一徳主権長子より御書に養母の如く
長子より御書に養母の如く
徳主権長子より御書に養母の如く

月防多々力之長口九甲辰年十月十日

信信公内院長 俵元内院長

川也口元八重 延享二年十月十日

之四内院長 延享二年十月十日

舟防多々 延享二年十月十日

舟防多々 延享二年十月十日

舟防多々 延享二年十月十日

書信公内院長 俵元内院長

七代月 生國御書 菅谷合米御書

養母之御書

實秋之御書

實母

菅谷合米御書

右平次郎 延享二年十月十日 菅谷合米御書

日十二月 未年十月十日 菅谷合米御書

菅谷合米御書

菅谷合米御書

菅谷合米御書

菅谷合米御書

元文四和年二月去。物北人。到十八日。日。年。
葬。号。法山淨空。

百人能進。是。卯。方。

并託書

伊。文。大。何。多。女。

右。書。年。若。有。中。理。所。北。後。男。子。三。名。十。

書。長。子。理。所。并。能。書。所。

書。長。而。子。以。養。安。子。二。男。

八代目 生國成務 書長任保助養益

母家女

元文四打年十月廿八日由法。以。書。長。任。保。助。養。益。

書。長。任。保。助。養。益。而。法。書。長。任。保。助。養。益。中。後。

實係二女 庚年九月十日 丹後守 書長任保助

太書而法。 保。長。大。男。而。子。中。有。如。法。太。飯。

以。多。而。急。也。化。以。和。也。

實係保益。庚年七月八日。於。太。飯。初。北。任。保。助。太。

上。子。何。大。男。而。子。中。有。如。法。太。飯。

号 秋月受樂

養益書 二。子。而。子。中。

書。長。任。保。助。養。益。書。長。任。

原。 初。春。全。任。乃。 又。名。他。太。子。

九代目 書長任保助 書長任保助養益

母家女

寛保三癸亥年十二月廿五日由法之山落谷
源物者也 太皇太后青山内侍御
二条御所奉教生勅信者青山内侍御
寛文元癸亥年二月廿八日所出信者御
河内御所奉教生勅信者御所奉教生勅
寛保九乙亥年十二月廿五日御所奉教生勅
子能引也
安永八乙亥年四月十日御所奉教生勅
之田切蓮守也

以方樂之可也

板美御所奉教生

生勅奉教生勅之女

妻

菅合奉教生長也

初台御所
父名市丸

十代目 高正御所 菅合御所 菅合御所 菅合御所

母

板美御所奉教生

生勅奉教生勅之女

未成之乙

寛保三癸亥年十二月廿五日由法之山落谷
源物者也 太皇太后青山内侍御
二条御所奉教生勅信者青山内侍御
寛文元癸亥年二月廿八日所出信者御
河内御所奉教生勅信者御所奉教生勅
寛保九乙亥年十二月廿五日御所奉教生勅
子能引也
安永八乙亥年四月十日御所奉教生勅
之田切蓮守也

早稲子係系... 柳生... 口上... 比北... 招子... 色... 仰老...

素

永清石馬正林

想願

菅谷常子

早世

想願

菅谷長春

早世

菅谷... 菅谷...

菅子

菅谷詔助建吉

安永元年... 二月... 卯...

之田想願

菅谷權忠長流

天保三癸卯年九月在女子啓物物死体
取之出候也願之奉報を四月十五日
色も取候と候り方同候も願之奉報
り方由是を所奉并報之候也
寛政八丙寅年十二月十二日初
御月日未定

四男

精平河上重盛

寛政十一年九月廿日大嘗會年坊内
御禮金之奉り方我部養子之在候
女子

養子禮金啓物之取候は此等啓物物死

仁娘後寛政四壬子十二月十日取石列
大井林物死候

由代友

佐友重盛為願

女子
佐友重盛為願

右通由代友

寛政十一年十二月
菅谷河上重盛

末三月晦日
仙石深雪齋

後和同
子部信若坊

系譜

す 源
葵 六

山崎信若坊
菅浪友之丞

源姓

菅原氏

先相代、河國、菅原氏、中、代、不

能之致

九月、葬、崩

希之致

軍記、圖、解

常之致

同、形

家之致

九月、三、日、紙

清和天皇、後、胤

菅原刑部左馬廐、周、十九、代

武久

菅原、控、左、衛、門

母、不、知

妻、不、知

如、平、年、月、日、不、知、三、列、產

如、平、年、月、日、不、知、三、列、產

如、平、年、月、日、不、知

神、君、如、清、奉、公、社、周、々、系、山、津、津、法、供、出、由、中、傳、不

如、平、年、月、日、不、知、病、死、葬、此、法、右、不、知

如、平、年、月、日、不、知、年、九、月、大、水、上、古、水、腐、任、書、昌

如、平、年、月、日、不、知

武、則

又、右、衛、門

母、不、知

妻、不、知

乙未年八月日不念三列三

大勸公御代寛永十三年八月日不念四天守

昔年御代 年月日不念五御代

清成三年八月日不念六御代

乙未年 上意公御代八月日不念七御代

乙未年御代八月日不念八御代

乙未年御代八月日不念九御代

乙未年御代八月日不念十御代

乙未年御代八月日不念十一御代

武正

乙未年御代八月日不念十二御代

乙未年御代八月日不念十三御代

武重

乙未年御代八月日不念十四御代

母不念

妻不念

乙未年八月日不念十五御代

大勸公御代寛永十四年八月日不念十六御代

乙未年御代八月日不念十七御代

常憲公御代附於神田陸奥中十八御代

乙未年御代八月日不念十九御代

乙未年御代八月日不念二十御代

乙未年御代八月日不念二十一御代

乙未年御代八月日不念二十二御代

法名 周思院 志譽了閑

武弘

菅原 志譽了閑

菅原 志譽了閑

重章

物右衛門

舟石知

舟石知

最右大臣 神田 延長 志譽了閑 法度 志譽了閑

法度 志譽了閑

法度 志譽了閑

法度 志譽了閑

天照三 志譽了閑

法度 志譽了閑

元極元年 志譽了閑

元極元年 志譽了閑

元極元年 志譽了閑

元極元年 志譽了閑

元極元年 志譽了閑

武賢

小四郎

舟石知

舟石知

佐山 志譽了閑

文熙公仲代室永... 二年二月廿五日...
 日七... 年十月廿... 十八...
 日十八... 年八月... 新...
 年七月廿... 年...

葬地口前号 禅思院秋元宗...

武昌

助次

養母

佐山... 氏...

実父

百人... 氏... 山...

実母

馬場... 氏...

...

出生... 年... 月... 日...

有徳公仲代... 十四... 新...
 活... 組... 年... 七月...
 年... 月... 日...

之... 日... 元文... 十... 六月... 八...

養母... 觀... 道...

正勝

熊...

養母...

實父

山...

白...

家...

妻...

老...

元文... 二月...

惟... 卯...

大澤野郎 為父五為親等事 敬啟者
元和八年辛酉月 謹啟
野村長四郎 謹啟

久忠

友之忠

大田傳之丞 時長女
一傷友者 知用
素 野村長四郎 謹啟

五條身實 政元 辛酉年十二月 謹啟
近江守 長四郎 謹啟
西尾守 長四郎 謹啟

渡明公 父 為父五為親等事 敬啟者
元和八年辛酉年 十月 謹啟
野村長四郎 謹啟

渡明公 父 為父五為親等事 敬啟者
元和八年辛酉年 十月 謹啟
野村長四郎 謹啟

渡明公 父 為父五為親等事 敬啟者
元和八年辛酉年 十月 謹啟
野村長四郎 謹啟

大田傳之丞 時長女
一傷友者 知用
素 野村長四郎 謹啟

純白坪

三原原色... 麻布... 純白坪

久勝 正勝次男

右... 正勝次男... 菅原... 右... 六月...

女子 母 勤心... 勤列

右... 通...

右... 勤心... 勤列

寛政十一年十月

菅原... 末...

未三月廿八日
出立系在使

為弟氏
子百餘年

系譜

可
癸亥二
友

小弟...
未百餘年

卷原姓

未定

大藏冠理之支流也唯法流中後相系

幕之紋

権之葉

帯之紋

目之紋

家之紋

合巖子内九三之川

政本

石見守

源氏出河部部系年册付任
素石守

生山氏 年月日

年月日
仕源氏大守今川氏貞
源氏出河部部系年册付任
天正十年
遂之端
石見守
神宗

軍功也運致奉正五時小

神君遺一用其以各在領所徵之既
是活下後也一ノリ由領ニテ

神君若教詳之六好以難之
廣幸非ト幸ト長ノ所領石其其幸也又
活河大勳云忠也之善入部ニ時屢事所
正周親友取朝以不所述因釋ト在正
仁終發之十部也
神君若教大也 在也

政信

忠在信

天正十二年四月三日

母

忠在信之政信也
知在信之信者也

神君

紀伊大納言殿下
正保三年四月
因部守中
政晴

慶長七年三月

母

初念云廣有子

長女川修長

大御所代守保正

百部口初年三月

法務公卿年法

他力所代守保正

万治四年

年也

政

生

母

子也

那方宰相之弟米知川之白居居能行經
川中多交五乙三年二月十日死云

母

十三

後田以名名之
巨細人知甲所動
力事主

信基

市之

母

後田以名名之

此乃...之...
巨細...
...

政道
...

母
...

妻
...

送楊...
...

...

政事
...

...

養父
...

養母
...

實父
...

實母
...

妻
...

...

...

...

...

又服...
...

延喜四年四月九日
直政 母 日 上
あまの進

河内 正親 兼家
女子 母 日 上
あまの進

女子 母 日 上
あまの進

女子 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

早世 母 日 上
あまの進

めくれず

定方四丁... 直政 母 日上

平徳... 女子 母 日上

女子 母 日上

采 母 市十加 早世

女子 母 日上 政利妻

采 母 日向 早世

政利 母 日向

女子 母 日向 早世... 采 母 日向 早世... 政利 母 日向

山口紀房の娘

女子

寛政十三年三月廿七日

由緒

天明四年十一月廿三日

女子

母曰上

天明三年三月廿七日
天明四年十一月廿三日
天明五年三月廿七日

女子

母

天明三年三月廿七日

女子

早世

母曰上

女子

母曰上

天明三年三月廿七日
天明四年十一月廿三日
天明五年三月廿七日
天明六年六月廿七日
天明七年九月廿七日
天明八年十二月廿七日
天明九年三月廿七日
天明十年六月廿七日
天明十一年九月廿七日
天明十二年十二月廿七日
天明十三年三月廿七日
天明十四年六月廿七日
天明十五年九月廿七日
天明十六年十二月廿七日
天明十七年三月廿七日
天明十八年六月廿七日
天明十九年九月廿七日
天明二十年十二月廿七日
天明二十一年三月廿七日
天明二十二年六月廿七日
天明二十三年九月廿七日
天明二十四年十二月廿七日
天明二十五年三月廿七日
天明二十六年六月廿七日
天明二十七年九月廿七日
天明二十八年十二月廿七日
天明二十九年三月廿七日
天明三十年六月廿七日
天明三十一年九月廿七日
天明三十二年十二月廿七日
天明三十三年三月廿七日
天明三十四年六月廿七日
天明三十五年九月廿七日
天明三十六年十二月廿七日
天明三十七年三月廿七日
天明三十八年六月廿七日
天明三十九年九月廿七日
天明四十年十二月廿七日
天明四十一年三月廿七日
天明四十二年六月廿七日
天明四十三年九月廿七日
天明四十四年十二月廿七日
天明四十五年三月廿七日
天明四十六年六月廿七日
天明四十七年九月廿七日
天明四十八年十二月廿七日
天明四十九年三月廿七日
天明五十年六月廿七日
天明五十一年九月廿七日
天明五十二年十二月廿七日
天明五十三年三月廿七日
天明五十四年六月廿七日
天明五十五年九月廿七日
天明五十六年十二月廿七日
天明五十七年三月廿七日
天明五十八年六月廿七日
天明五十九年九月廿七日
天明六十年十二月廿七日
天明六十一年三月廿七日
天明六十二年六月廿七日
天明六十三年九月廿七日
天明六十四年十二月廿七日
天明六十五年三月廿七日
天明六十六年六月廿七日
天明六十七年九月廿七日
天明六十八年十二月廿七日
天明六十九年三月廿七日
天明七十年六月廿七日
天明七十一年九月廿七日
天明七十二年十二月廿七日
天明七十三年三月廿七日
天明七十四年六月廿七日
天明七十五年九月廿七日
天明七十六年十二月廿七日
天明七十七年三月廿七日
天明七十八年六月廿七日
天明七十九年九月廿七日
天明八十年十二月廿七日
天明八十一年三月廿七日
天明八十二年六月廿七日
天明八十三年九月廿七日
天明八十四年十二月廿七日
天明八十五年三月廿七日
天明八十六年六月廿七日
天明八十七年九月廿七日
天明八十八年十二月廿七日
天明八十九年三月廿七日
天明九十年六月廿七日
天明九十一年九月廿七日
天明九十二年十二月廿七日
天明九十三年三月廿七日
天明九十四年六月廿七日
天明九十五年九月廿七日
天明九十六年十二月廿七日
天明九十七年三月廿七日
天明九十八年六月廿七日
天明九十九年九月廿七日
天明九十年十二月廿七日
天明九十年三月廿七日
天明九十年六月廿七日
天明九十年九月廿七日
天明九十年十二月廿七日

右の通り

高十百石 常陸 和國 堀河 堀河 堀河 堀河

實政十一 末年

末高 年足書 古判 七十三歳

末十一 行 足書

末十一 年 足書

足書

一系十二 堀河 末 足書

甲 足書 末 足書

又

湯之山白永

中女

甲府系
服於信之河政系

書文

甲府系
備井之河政系

宮海

未之河政系

右系女

外之河政系

右系女
未之河政系

右系

未之

大德冠海之山系代

信之河政系

未之河政系

備井之河政系

家之

九月

希之

日之

昭之

九月

未名信三代事為其信者也

政信 書

母

未名信三

書

未名信三

未名信三

書

未名信三

未名信三

未名信三

未名信三

未名信三

未名信三

未名信三

未名信三

政勝

書

母

未名信三

未名信三

其後之書紀書之... 女行...

政府 (書)

母 同上

大正... 中... 北... 宗次 十三情

母 同上 書 人...

宣文二...

清揚院...

勅...

延家七... 情...

山崎信成

貞享二年三月廿一日

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

山崎信成

女子

男子三十四歳 乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

作

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

乙未年十一月廿一日

女子

女子三十四歳

母

乙未年十一月廿一日

正寤

御書白十三番

母

定次女

書

一

孝江守

高橋一丁目子(中)子(父)江守

御書白十三番

母

同九月辰子(中)子(父)江守

御書白十三番

御書白十三番

御書白十三番

有江守 御書白十三番

上宅甲府(中)子(父)江守

御書白十三番

御書白十三番

御書白十三番

御書白十三番

正恒

正恒
正恒

母

母

書

書

書

生甲府

室曆八

室曆八

...

...

...

...

...

...

昭和元甲申...

...

...

傳信...

...

...

...

...

...

正...

...

母 あり

甥 清太郎 正次 正三 正四 正五

妻

周仁

母

信子

幼少し 養育人 正次 正三 正四 正五

女子

同府 初女

伏見 中 氣 惟 兼 書

母

陽 佐 中 正 書 目 あり

正次

修 正 次

母 目 あり

云 書 あり

生 甲 府

天 保 元 年 壬 午 年 十 月 一 日 父 正 月

初 生 也 同 府 初 生 也 正 月

弟 正 次 正 三 正 四 正 五 正 六 正 七 正 八 正 九 正 十

女子

母 目 あり 正 次 正 三 正 四 正 五 正 六 正 七 正 八 正 九 正 十

正 次 正 三 正 四 正 五 正 六 正 七 正 八 正 九 正 十

高月通照

女子 甲辰年名 福井宅波色山吉書

母目之

示服七丁子子八子生宅波色山
之是病北江の有力母好も若
三情之南三原引九也

正吉

以是波色山

母目之

初少病女有波色山正次子也

女子

甲辰和色山通照
吉原和利通照

右九日信刻正書

母目之

女子

早世

母目之

正長

初富之助 吉三書

妻母

之西北

実父

十三情正書次男

正永

第廿

正書

生甲府

正永四年甲辰年四月廿九日
生甲府
正書
正永四年四月廿九日
生甲府
正書
正永四年四月廿九日
生甲府
正書

正永四年四月廿九日
生甲府
正書
正永四年四月廿九日
生甲府
正書
正永四年四月廿九日
生甲府
正書

正永

第廿

正書

生甲府

正書

生甲府

正書

生甲府

正書
生甲府
正書

書

生甲府

皇政元元百子中り二の程は遠一

漢之元未信出の。家未出程武就

之無言 作身甲府初名事有知事

子配初名

御母

曰六甲寅年一りは春上は日月

十の程月一程れ一之春地事重文

新上は

沖國上は

長長保りり候新上は北河内一之日月

本寺甲府也。能くも至る府初名

は

日十庚午子二り二。松平三行氏

妻配

長女

室父 甲府初名 福甚遠家正志子

室母

忠りの正恒子

女子

母 女子

女子

母 女子

正明

正明

母 宗女

三書

高野香積

高野香積
生由里人

高野香積
生由里人

文化甲子年七月

東海獨行
四十五卷

ありり所
溝口お徳のふ

千九百九拾年
源安のふ

五葉

二十
二十
二十

山無名
末の山

五葉

末の山

何處亂河由之任今中流も然先征
海河も河部部 里外村に任れあり
末の山あり路中と称初名無知州
太守今分以真江江原地五百也其月
州河部部部海千一子氏其初元流
属事田位云々 麓下又云千子子
是時新始得自殺後遂均千有御

海防の著述は多し其の尤も歴々の由志
信三海防最右親知位は海防成敗
行藏の信三也

元平佐州加賀備失くは其後
は四方中侍公年十の志

神君太平一統は後分刻に少部田原地
高池及堀山村の呼ぶ白書高島守
堀田氏に三つ子あり其後
幕に故 九三三行

家之故 國史
智故 権系

政下 乃る

母 志
書 志

年月の志佐州に

政下 新志

母 志

中山子母の事

石子子母の事
江戸國然子母の事

政行 一人

中田 吉光

実父

久野行實の事

実母

泉女

妻

赤松右衛門の事

出生年月の事

政中嫡男赤松右衛門の事

江戸國北之住居の事

久野行實の事

仁

慶長五年平兵衛被官有主之記

兵部少輔恒将一級其命軍印

不追教奉時

神君遠少少次右領所長は是清港

田原地

張君已故許在以前能了賜封代部有
嚴命此後所死不應其原之復
後而大物之惠老之乃入部時又
區別石田紙及洋湯少以而引也
因許之少水所學非于今也

如子 今月必也言 非念之信有重事

母 如子

如子 古月也 始於海地信事

母 如子

如子 未之早人改行書

母 如子

政信

忠孝

母 未為名也之改而也

未 今因事而信 雖有信有重事

天正十一年月日出生形不知

信君之 正和初之信君之信君

信君之 信君之信君之信君

付口服は口年より海江の部二重
し

正保二年十月十日
所出所奉子月法本系

政勝

母 胎念三書有言中

未高年より正保二年十月十日
法本系

之百信より正保二年十月十日
法本系

政勝

母 目上

未高年より正保二年十月十日
法本系

治儀之男

任元 一市左史 治儀名春日

廿日之

元知色 自平月之 齋出生

清陽院様 在 櫻田御殿

嘉永四年四月の 齋日 本家御所

御所御所 御付山切承承五種儀

御所

寛文元五年の 齋日 御所

延宝七年の 齋日 御所

同八年の 齋日 御所

山崎御所 御付山切承承五種儀

天和二年の 齋日 御所

御所御所 御付山切承承五種儀

元禄七年の 齋日 御所

福北 永昌院 宗美院 御所

法名 了也院 御所

宗次 重之儀

母 亦女

後同江府の久江の御所御年寄
信より書上り申す事御上り申す
亦平喜地日守
孤岳全像
而付甲府御易事なる湯方不
示

信正 申す事

母 亦女

書 上

出生年月日

常道公御代於格同江府

右取之書上り申す事御上り申す

御書上り申す事御上り申す

御書上り申す事御上り申す

元禄六年申す事御上り申す

日九子申す事御上り申す

作舟山の所在に於て合少の事
百信りり

元禄中ニ長年居るに公孫
信し心

外知言 作舟山書院ニ入

文昭公 西九ノ事 今書山書院
野子

文昭公 西九ノ事 今書山書院
野子

享保元甲午十月於夫人孫
此ノ事

日記

清石 清石院園志

珍寛

名書

書 山書院

書 山書院

書 山書院

書 山書院

文昭公は代書又末高市を以て信山書院

池大を信濃路に遊し甲子年四月廿二日
信濃より北へ遊し六月國書二冊
早人吉子信長後子の如く信元
卯白より十九日信正於此處初年表
子より卯村より大を信濃路に遊し
信濃路に遊し甲子年
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し

信濃路に遊し甲子年八月廿二日小善信正
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し

卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し
卯白より廿九日大を信濃路に遊し

右門守左衛門尉

右衛門尉

兼助

右衛門尉

末子守左衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

寛延元年庚辰子月廿二日
右衛門尉
右衛門尉
右衛門尉

日二月廿八日
右衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

右衛門尉

女子

右衛門尉

信門

右衛門尉

母

生事傳

生事傳一册子八日

信公御代文書為忠孝の珍重なる

書蹟也御代文書一册

宝曆二年子育書一册

同日九月四日珍重なる書蹟也

御代文書一册 信公御代文書

信公御代文書一册

同日九月四日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

同日八月九日珍重なる書蹟也

指日 傳付日八廿日了り也

一〇 宗也平初此大業也〇〇号

重信院廊通道也

女子 古書 傳付日八廿日了り也

古書

伝次 方力

天保元年子七り也。上書

福和也。業花日分号

其月院一及良暎

伝寶 山名重三

其母 常代

其父 初名 新名 傳中 出産也

實母 子

妻 妻為右左衛門女

安永二年十月廿日 生

初名 父 妻 為 右 左 衛 門 女

田中 伝 傳 中 出 産 也

其 母 傳 中 出 産 也

御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書

御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書

御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書
御子に御書

女子 右日入

母 孫女

女子 大日

母 孫女

某 尚書

女子 秋

右通

高五 信 切 玉 孫 氏 孫 氏 孫 氏 孫 氏

宣 政 上 事 年 末 為 岩 山 書 院

十
夜

系傳

事
石河正俊

善忠

田舎者

山内
石河正俊

末吉

無名氏

末吉

阿之田村麻呂土彦等曆二十一
代苗裔中末吉家持利平堅御
任平野平人正利末吉付御出
小柄之孫豊臣秀吉はり長秀秀吉
一物吉一字之信一子孫と末吉
改

幕一叙 九一四

系一叙 日一

勢一叙 二一

平野平人正吉

平野平人正吉

利一

末吉勲

母 一

一 中野平人正吉

一 平野平人正吉

一 阿之田村麻呂土彦等

秀吉は信長に秀吉を賜りて
其討ちを以て信長を討ちて
討つ

神無月 原系 上三宮 日秀 吉道

吉道 秀吉 信長 討つ

慶長四年五月廿二日

神無月 吉道 信長 討つ

同日 吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ

吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ

吉道 信長 討つ
吉道 信長 討つ

吉道 信長 討つ

吉道 信長 討つ

文之... 方之... 宿坊... 大御...

禁制

平野... 乃布... 赤村

一 軍器甲乙... 宿坊... 禁制

一 放火... 禁制

一 妻子... 禁制

九月廿一日

...

...

...

...

...

...

平野君一紙教多々有

付録を公衆と云ふのは此の所也

付録を公衆と云ふのは此の所也

毎方一冊中より一冊

付録を公衆と云ふのは此の所也

より根はなからしむるは

と申すは此の所也

付録を公衆と云ふのは此の所也

白紙に白紙を貼るは此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

此の所也

長忠

此の所也

母 子家

石生也為所養其の道後復其
解之也其の年子之知道者也
其の道也其の年子之末音及
其有也今以初也其也

道壽

其の年子

母子家

石道壽其の年子之末音及

其の年子
其の年子

元和二丙辰子月之末音及

其の年子其の年子

其の年子其の年子

其の年子其の年子

其の年子其の年子

其の年子

其の年子

其の年子

其の年子

其の年子

其の年子

其の年子

元禄元年庚午十月十日坊州山崎町

林君代官書十二丁寺子居の家文也

書信紙裁り正相紙

因十二日申の七日に還還

出立の御手紙也 作付

河内郡大藏所判書右伊丹守

坊州守代官書十二丁寺子居の家文也

一万石の仕立 有印

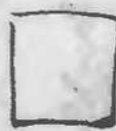
自日本到

還還國紙也

右

元禄元年庚申

孟秋二十日



至後

元禄十九甲寅十月十九日

中條の二条 河原に渡りて
石上

平将房名仲の垣根とて一帯
多分と云ふ事

三國に討つる事なる事

河原に下る事

河原に下る事

平将房名仲の垣根とて一帯
多分と云ふ事

二條

河原に下る事

河原に下る事

河原に下る事

林制

防衛に任ず

平野御

一軍將也今堅防根籍事

一放火事

一河取田畑作事

石於遠行中書去迹

三三藏料起仍存

慶長十九年十月廿九日

石於遠行中書去迹

慶長十九年十月廿九日

平將左衛門人教三書入書部書

可成忠三書考類傳三書部書

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

石於遠行中書去迹

ノ官カ如クモ口御方人カ事カ
目石ノ儀月大儀也守大儀ノ事
人取押入ノ目ノ儀

社 汗陣治ノ事 石

上意ニ去カ事カ大儀也
引ニ大儀カ事カ
之儀以西ノ儀豊儀
事カ之儀
去カ事カ事カ

御書カ事カ先達ニハ方儀
四目ノ事カ事カ
引付ノ事カ事カ
ノ取回ノ事カ事カ
申上ルノ事カ事カ
付ノ事カ事カ
御書カ事カ事カ
事カ事カ事カ
事カ事カ事カ

會のりて之の一人取押の屋
邊より下迄水干等の一里半
大和海に下りて之を以て
津舟之邊の北邊に於て中野
以事有信進之と載りて之を
火に申すより海に下りて
放火衝情の如く人之所を
所可去す事有信の如く
之を以て之を以て之を以て

山口より押寄強長の一
百餘平野一系は之を以て
越後村に上りて之を以て
火に申す事有信の如く
之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て
津舟の邊に下りて之を以て
之を以て之を以て之を以て
之を以て之を以て之を以て

田一

師君大信長公此江守

高徳公年長公在江守時

江守 師君刻海左

山号山古新江守

江守 師君刻海左

山号山古新江守

江守 師君刻海左

江守

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

江守 師君刻海左

高野の静澄一古地加修地寺
白濁の書道師の師主今も在
百廿七年

高野の静澄一古地加修地寺

古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

高野の静澄一古地加修地寺

住持 徳山 普光 住持 所好 亦 亦 亦

母 心 住 心 住 心 住 心 住

大 住 住 住 住 住 住 住

二 住 住 住 住 住 住 住

院 住 住 住 住 住 住 住

住 住 住 住 住 住 住

右 住 住 住

住 住 住 住 住 住 住

住 住 住 住 住 住 住

道 良

住 住 住 住

母 住 住 住

利 長

住 住 住 住

母 住 住 住

書

田原市街 海軍

母

平野

近右津氏

書

平野

台

元和... 父... 母...

河内... 近右津... 田原... 海軍...

平野河内備前備後大板木形下也
河内板木流世一而外河と建を
名人と有付也其を其を其を其を
り其のた連一先其を其を其を
り一 平野河内備前備後大板木
り其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を

平野河内備前備後大板木形下也
河内板木流世一而外河と建を
名人と有付也其を其を其を其を
り其のた連一先其を其を其を
り一 平野河内備前備後大板木
り其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を
其のた連一先其を其を其を

中村の村人等とて其後法皇に
在り未だ大後彦彦御方にて
中村片桐方にて代々宗寺村
之と申す山井河筋沿川に
村平野門より大後と川に
普徳殿一と申す此と申す
政の事所にて川筋の村に
形或は既に史より山井河
了之を唯と申す此と申す

和名河原と申す此の村
此の山並法に 仰付りて
形或は山井河筋村にて
一山中五ヶ村の村に
此の村にて此の村にて
又之昔に此の村にて
此の村にて此の村にて
此の村にて此の村にて
此の村にて此の村にて

上宮御系村若地字千四石
之知子安言及法有言之在也
少子孫

寛永十六年乙卯二月廿四日
病北字也女之為行山一也院
蓮花定院系法也
蓮花院道宗

道明 多能波世後人
之知七女也

母 日光

女子 多能波世後人
蓮花山也系

母 日光

長明 多能波世後人

母 泉女

素 多能波世後人
後山也 位高有女

曆七十四也 乙卯 多能波世後人

子生

大正六年十月廿六日

...

...

...

...

...

...

...

正明

母

...

女子

...

母 右目

利長

勅公所 勅書

母

後山崎西位有女

書

抄本 村松吉太郎

西海四丁亥年子也右目也

如左

嚴有公所代勅書知少女物又未在公
右目也 仰付此月一申元也

若代右公所代勅書

奉為乙卯年子也右目也

後山崎西位有女

仰付此月一申元也

如左

若代右公所代勅書

奉為乙卯年子也右目也

後山崎西位有女

仰付此月一申元也

之後部之書十八年、其後廿日
一由也

寛文四年甲子六月廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

其後廿日、其後廿日、其後廿日

書物懐失仕り

貞享二年六月九日
大坂八町目寺町
信光の御筆
信光 威霊院

正統 水之佐之史

母 後山路正之位為有子

右法皇御孫 皇孫 皇孫 皇孫 皇孫
中御 水之佐之史
左御 水之佐之史

女子

信光御孫

末子 孫 孫 孫 孫

母 後山路正之位為有子

喜子

如喜子御孫 信光御孫

母 信光御孫

喜 大御孫 喜子御孫

近江守 喜子御孫

常憲公... 甲申六月十七日

父幼之... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

... 甲申六月十七日

志未若然原所為孫善世女
有同乙二子孫
同年四月廿九日孫延禧孫延禧
有年皆立情願。此後
延享元甲子八月廿九日
又元乙子孫延禧孫延禧
作
實是 孫子四月廿九日
三月廿九日孫延禧

法為廓了院立性

利孫

母

孫延禧女

按以平定之孫延禧孫延禧
及順孝孫延禧

元利

劫次

孫延禧

母

目前

先未若孫延禧孫延禧
り此男子之也廿九日孫延禧

女子

大のちのち
松本白雲

母 同少

元利

御法寺
公直

母

松村喜久

妻 山崎

天和九年丙子於松本平野に於て
右八重乃の妻末吉松村喜久
喜久の女松本白雲の母

從父遠く縁之を末吉松本白雲の母
子と知りぬれしに
○ 山崎の母

寛保二年壬子二月十日合意

松本に於て此の事なり

町家柏崎寺持子 觀廊院日真

女子

大のちのち
休元松本白雲の母

母

山崎
大のちのち

利隆

德源寺住持 坊主 肥後守

書母

實父

實母

書

末吉之書 萬福寺

了信 休那 宗倫 廿

先山 養院 中根 大國 子 孫

享保中 二丁 亥年 十月 十四日 於 坊 主

延享元 甲子 十月 十六日 於 坊 主 宗若

德島 喜丁 辰 延保 坊 主

長崎 山口 延和 坊 主 宗若 宗倫 宗倫

長崎 文府 小 宗若 坊 主 宗倫 宗倫

之 前 文 宗若

也 乙 丑 子 子 子 子 利 隆 坊 主

宗若 坊 主 宗倫 宗倫 宗倫 宗倫

宗若 坊 主 宗倫 宗倫 宗倫 宗倫

宗若 坊 主 宗倫 宗倫 宗倫 宗倫

宗若 坊 主 宗倫 宗倫 宗倫 宗倫

中 宗若

宝曆三年丁未二月廿六日御用

令 仰分付諸方之次第如左

一 仰分付 仰分付

同日之御用 仰分付 仰分付

仰分付

同日之御用 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

仰分付 仰分付 仰分付

日ノ月ノ二リ共ニ 海島に集
ルニ 印付

日七 庚子年 子ノ山 宝珠集押

五和

日ノ月ノ二リ共ニ 海島に集

ルニ 印付

日八 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

日九 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

日十 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

日十一 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

日十二 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

日十三 庚子年 子ノ山 宝珠集押

ルニ 印付

山月如初... 念女及... 後... 仁

元正元... 孝... 同... 一...

漢... 仁... 山... 月... 初...

昔... 新... 所... 於... 海... 田... 原... 在... 家...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初...

用... 在... 解... 以... 甘... 時... 後... 二... 第... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁... 山... 月... 初... 仁...

布衣已至四没人行科現以字多
以月多者 你付也

日三夜下〇七〇十〇尾是德名

能品川山考症 勿來年九月

山利山 你付也 於若年極類

田原之船匠 你付也 極類

河月是也 你付也

上意所被二山我今之及洋所

江口回子 你付也

河月是也 你付也

上意所被二山我今之及洋所

上意所被二山我今之及洋所

上意所被二山我今之及洋所

新毒即在於米倉中後也

你付也

日三夜下〇七〇十〇尾是德名

能品川山考症 勿來年九月

山利山 你付也 於若年極類

十封... 年... 國... 年... 月...
... 書... 長... 表...
... 書... 如... 諸...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...
... 子... 子... 子...

... 子... 子... 子...

利忠

母

書

山井貞
公九國軍務總長

竊念此山物之經營經營事
宜及二庚戌年十一月
初九日知古事矣
海力江家新秋
出仕法女子
原長庚辰

同日壬子
家屬十二
家未子十月

廿八日
御子也
元正元
同日
御子也

後明公在荒河以初為...

日六... 年... 月...

...

...

...

後明公在荒河以初為...

日六... 年... 月...

...

...

...

...

後明公在荒河以初為...

...

...

...

...

後明公在荒河以初為...

...

淨也

同^月年四日

行身夜所拜送供奉仕の目録

其の由は遠く全山方とありて大徳

日心^云十日十日今日とて進出

社笹^云旨取所中^云後日地極

同七年十月二十一日

淨也

日辛七月一日

淨也^{石雨牡丹}幅別^{中石}淨也

淨也^左淨也

淨也

淨也

淨也

淨也

淨也

未

夫有次子

人公國壽壽子

實名山由物之如平信七等

女子

母 田子

父 紀信吉病北後母 中流大加田

方山子

男

長井信吉 昭常物 又五子

母 兼子

安永九子 子子 上八八山壽信

仙石信三信子 紀中井又子 同

豊平信子 如

山院 昭常

正輝

母 兼子

天照之妻 子子 上八八山壽信

信三信子 紀中井又子 同

子 如

利貞

庚子元

母

庚子元

庚子

庚子元

庚子元

庚子元

庚子元

庚子

日四

日四

日五

日六

日七

日八

日九

日十

日十一

不孝乳

此物乃吾井之昌隆也

女子

長井宗元昌隆喜

母

西九出此世武田信元也

女子

若部若右少次信喜

母 系女

右是部若右少次信喜

百二年支那...

三月九日...

...

...

...

...

...

同十一年...

...

...

高之百...

...

...

宣和十一年

書元之也

二十

[Faint, illegible handwritten text]

